

(様式第4号)

史跡上田城跡整備実施計画検討委員会 会議概要

1	審議会名	史跡上田城跡整備実施計画検討委員会
2	日時	平成28年12月13日 午前10時00分から午後3時00分まで
3	会場	上田市教育委員会 第一会議室
4	出席者	渡邊定夫委員長、川上元副委員長、浅倉有子委員、栗村道子委員、平井聖委員、三浦正幸委員、三井圭司委員、吉田博宣委員、県教委
5	市側出席者	事務局(教育長、教育次長、文化振興課長、公園緑地課長、博物館長、文化財保護係長2名、公園緑地担当係長、文化財保護係1名、公園緑地担当係1名)
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 4人
8	会議概要作成年月日	28年12月16日

協議事項等

1 開 会(文化振興課長)

2 あいさつ(教育長)

3 協議事項

(1) 議題の概要(事務局からの説明)

尼ヶ淵崖面及び本丸堀法面崩落防止対策工事について(実施箇所及び工法)
西櫓年代測定の調査結果及び重要文化財指定に向けた取り組みについて
発掘調査の結果について(平成27~28年度)
整備実施計画の推進について(武者溜りの整備等)
報告事項(園路舗装の完了等について)

(2) 協議概要(議題に対する質疑応答)

議題 について

(委員) 尼ヶ淵崖面の崩壊箇所について、南櫓直下の崩壊箇所に見られる土の塊は何か。この形状で落ちたのか。ブロック状に落ちたものは見たことがない。オーバーハングしており、安定勾配にしないとまた崩れてしまう。ただし、崖上の草が生えている部分を除去して、現状でしばらく様子を見てもいいのでは。

(事務局) 土の塊は崩落当時のままである。土の塊が雨水の浸透により、そのままずれたものとする。

(委員長) 崩落後の変化は元の状態を想定しておかないと復元は難しい。古い写真を見て、現状との差がどのくらいあるのかといったことも復元の際の手がかりになる。安定勾配のために造成工事を行ってしまうと、自然に出来た物とはかけ離れたものになってしまう。樹脂で補修した場所の毀損はどのような程度か。現状のまま樹脂で流れを止めることも限度があるが、矛盾が生じてしまう。崖面でなく、内側に水を逃がすような処置を。

(事務局) 樹脂補強した崖面とは西櫓の直下で、現在は樹脂が弱くなった部分が落下している。

(副委員長) 崖面よりも上部に浸透する雨水をどうするかについて検討すべき

(委員) 崖上から水が入らないように防水シートを埋設すれば崩落は減る。尼ヶ淵は歴史的にも人為的に急勾配にしているため、これを変えるのは歴史的によくない。

議題 について

(委員) C14年代測定の結果から、西櫓が寛永期に造られたということがこれで確定した。上田城の本丸隅櫓は二重櫓としては大規模で、一般の櫓の2倍以上ある。また、構造が特殊で、普通は2階になれば面積は低減していくが、2階が大きい。2階の柱の寸法を小さくしている。これは寺院と同じような構造で城郭では普通行われぬ。南・北・西櫓とも同型・同規模。古い類で価値が高いと言える。

重文に指定されるためには文化庁の調査官に見てもらう事が重要。報告書が出るタイミングは良い機会。

(委員) 西櫓で用いられている建築材は果たして1400~1500年代の古材なのかどうか。あるいはどういう経過の古材なのか調べてみる必要がある。

議題 について

- (委員) 発掘調査では二の丸堀の入隅の角は未検出だったのか。
- (事務局) 調査結果から、テニスコートの地下に堀の隅が存在すると考える。
- (委員) 赤線で示された指定範囲について、陸上競技場と遊園地の間、また陸上競技場と野球場の間の指定範囲は何に基づいているのか。
- (事務局) 陸上競技場と遊園地の間は土橋、陸上競技場と野球場の間については不明である。おそらく昭和9年の指定の際に地番で指定したため、現状のような指定範囲となったのだと考える。

議題 について

- (委員) 旧市民会館の撤去費用はどの位か。
- (事務局) 3億円程度を見積もっている。
- (委員) 旧市民会館の設計者は誰か
- (事務局) 東京の(株)石本建築設計事務所(上田市役所や現在の小諸市役所を設計)である。
- (委員) 旧市民会館は近代建築リストにも載っているはず。撤去に際しては事前に建築士会に声をかけておいたほうがよい。

議題 について

- (委員) VRの満足度はどうか。
- (事務局) インストール数が36000を超えるなど、非常に好調な利用数と考えている。

4 閉会(教育長)